＜報道発表資料＞
（府、宗教同時）

令和７年８月１９日
文化庁連携プラットフォーム
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

「寛永行幸四百年祭」一年前記念シンポジウム
「屏風から見る寛永行幸」の開催

寛永３年（1626 年）、徳川幕府が後水尾天皇を二条城にお迎えし、5 日間に渡って様々なおもてなしを行った、江戸時代を通じて最大級とも言えるイベント「寛永行幸（二条城行幸）」が実施されました。

令和８年（2026 年）、「寛永行幸」から 400 年の節目を迎えるに当たり、オール京都の組織である「文化庁連携プラットフォーム」のプロジェクトとして、「寛永行幸」の行事を再現し、その当時の京都で花開いていた「寛永文化」を振り返る記念祭「寛永行幸四百年祭」を実施します。

この度、文化庁連携プラットフォーム内に「寛永行幸四百年祭」実行委員会を立ち上げ、「四百年祭」１年前の機運醸成イベントとして、幅広い方々に「寛永行幸」について深く理解いただけるシンポジウムを、令和７年９月６日（土）に開催します。

【シンポジウムの開催概要】

● 日時　令和７年９月６日(土）午後１時３０分～４時３０分（開場 午後１時）
● 会場　京都府公館（〒602-0912　京都市上京区 一条下る龍前町 590－1）
● 内容　「寛永行幸」は書物や絵巻などに記録が残され、後世に語り継がれてきました。中でも特に興味深い絵画資料が「二条城行幸図屏風」。御所と二条城の間を進む公家と武家の行列だけでなく、おしゃべりをしたり、酒を酌み交わしたりしながら、行列を見物するたくさんの民衆が描かれています。その姿からは、現代の私たちが祭りを沿道で眺め、楽しむのと同じ熱気が伝わってきます。この「二条城行幸図屏風」に何が描かれ、何を教えてくれるのか、各ジャンルの専門家が読み解きます。
● 登壇者　実方葉子（泉屋博古館学芸部長）
　　「二条城行幸図屏風」の絵画的特質
　山科言親（衣紋道山科流若宗家、山科家 30 代後嗣）
　　「二条城行幸図屏風」から見た有職と装束
　西山　剛（京都文化博物館主任学芸員）
　　都市民が見た二条城行幸
　松本直子（元離宮二条城事務所学芸員）
　　二条城行幸　絵画と記録

京都市
CITY OF KYOTO

- 定員　９０名（先着順）
- 参加費　無料
- 申込　以下の二次元コードから専用サイトにアクセスし、お申し込みください。

- 運営　主催：寛永行幸四百年祭実行委員会（文化庁連携プラットフォーム内）
  共催：Living History KYOTO
- 協力　泉屋博古館

【「寛永行幸四百年祭」実行委員会について】

行政、経済界、文化関係団体等で構成するオール京都の組織「文化庁連携プラットフォーム」内において、令和７年８月に立ち上げた「寛永行幸四百年祭」の実行組織。令和７年度は、各種の機運醸成事業を実施し、本番となる令和８年度は、行幸行列の再現イベントや、二条城での各種展示・企画等を実施する予定。

構成（令和７年８月現在）

京都府、京都市、京都商工会議所、一般社団法人 京都経済同友会、元離宮二条城事務所、公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー、公益財団法人 京都文化財団、公益財団法人 京都市芸術文化協会、公益社団法人 京都府観光連盟、公益社団法人 京都市観光協会、株式会社 京都新聞 COM

※　本イベントは、文化庁 令和７年度「文化資源活用事業費補助金（全国各地の魅力的な文化財活用推進事業）」の補助を受けて実施しています。

文化庁

＜本事業に関するお問合せ先＞
寛永行幸四百年祭実行委員会（文化庁連携プラットフォーム内）
メールアドレス：info@livinghistory-kyoto.com

＜報道機関からのお問合せ先＞
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課
電　話　番　号：０７５－２２２－４２００
メールアドレス：bunka@city.kyoto.lg.jp